

【文部科学大臣賞：小学生の部】

「ぼかぼかわたしので」

福島県・須賀川市立西袋第一小学校

1年 吉田 梓乃 さん

わたしは、こういうひとをみました。

はがないおじいちゃんは、おかゆみたいなごはんをスプーンでたべていました。おばあちゃんは、ぼうみたなものをもってあるいていました。たいやのついたいすにのっておでかけしているひともしました。

みたときに、かわいそうだからたすけてあげたいとおもったけど、はずかしくてできませんでした。でも、もしかしてわたしがたすけてあげたら、うれしかったかもしれません。

あと、こういうひともしました。

めがみえないひとが、きいろのぼちぼちのうえをあるきました。みみがきこえないひとは、てをつかってあいずしていました。おにいちゃんがしゅわとおしえてくれました。

わたしは、たいへんだなとおもいます。

でも、そういうひとがあんまりたいへんにならないように、きいろのぼちぼちがたくさんあったり、しゅわやテレビのがめんのしたのほうに、じがあるんだよとおとうさんがいっていました。すこしだけらくちんになったり、たいへんじゃないようになるものが、わたしのまわりにいっぱいあってすごいとおもいます。

わたしが、たすけようとしたら、だいじょうぶですと、ことわられるかもしれません。

でも、わたしのでがやくにたつときがあります。おばあちゃんがぼうをわすれたら、てをつないでいっしょにあるきます。きいろのぼちぼちがないどうろでは、わたしがおはなしして、てをひっぱってあげます。わたしは、しゅわはできないけど、てがみやえはとくいです。

たすけてあげるのはどきどきするけど、わたしのでがだれかのやくにたつて、こころがぼかぼかすると、わたしもうれしいです。

これから、わたしは、だれかいたら、てをだしてあげてやくにたつてみたいです。